TOP COMMITMENT

栗本鐵工所の目指すもの
一信頼の回復と社会への貢献を目指して

株式会社栗本鐵工所
代表取締役社長
横内 誠三

【栗本鐵工所の存在理由】

当社は2009年２月に創立100周年を迎えます。
1909年（明治42年）水道・ガス用鋳鉄管の製造から始まり、産業機械や橋梁、空調用スパイラル管、農下水用ヒューム管やFRPM管、電纜管、井戸管、粗大ごみ処理場等々、人々の生活を支えるライフラインを構築。安心して暮らせる環境づくり、国づくりを実現するために貢献してまいりました。
社是の『人類の幸福に貢献していく』決意は創業以来、変わっておりません。公利公益のために地道に社会を良くしていく製品づくりに邁進してきたとの自負があります。

【甘えた体質からの脱却】

しかしながらこの創業の志が上手く継承されず、他社との共存共栄を標榜し良い製品をつくればよいと考えてきたことが、２度の独占禁止法違反で告訴される事態を招き、多くの方々に不信の念をわき起こしてしまいましたことを猛省し、心からお詫び申し上げます。

【コンプライアンス宣言】

皆さまに再び信頼していただける企業となるために、今後は絶対に違反を起こさないことをここに誓います。もし談合なくして存続出来ない事業ならば撤退するとの宣言を、全社員に向け発表しました。また再発防止に向け、全社員に誓約書へサインをさせると共にコンプライアンス教育の徹底を図ってまいります。

【これからの栗本鐵工所】

100周年を迎えるにあたり、さらなるネットワークの拡大と、技術力の向上を目指していきたいと考えております。

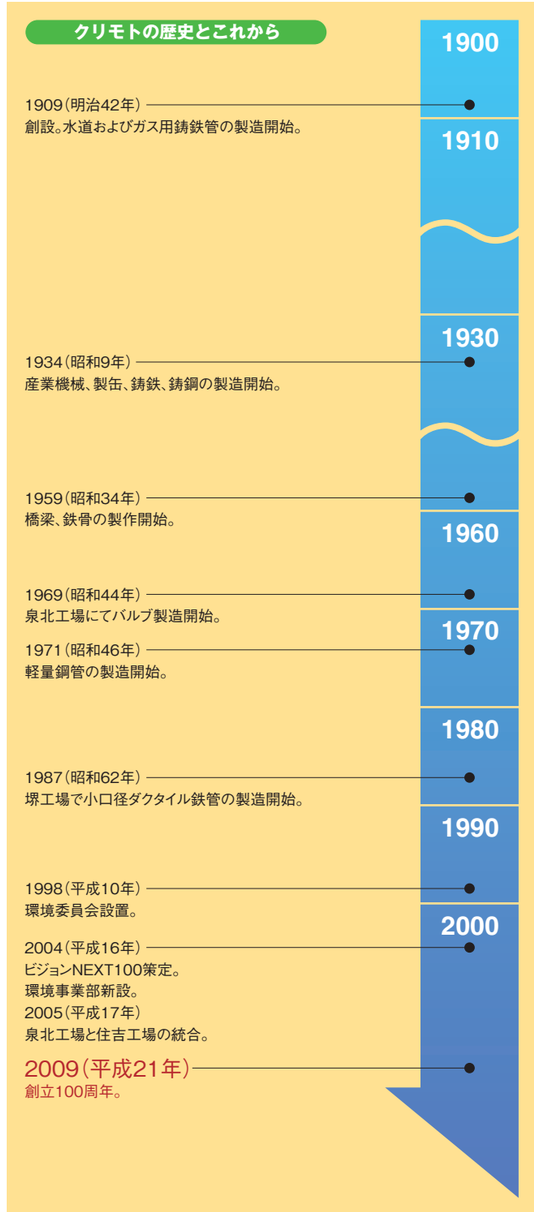
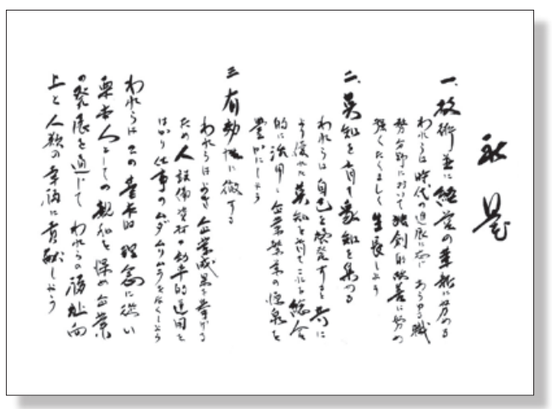
1. 海外展開
中国、フィリピン、ドイツ、米国に拠点を設置しました。一部製品の生産を海外工場への移転も進めております。日本から世界の人々の幸福に貢献するため、海外比率を５年以内に現在の３倍まで高めていきます。

2. 民需開拓
建材・機械を中心とした民需の拡大と共にPPP、PFI参入等、民間比率を5年以内に70%までに高めていきます。

3. M&Aの加速
今までにも明光重工業（現住吉工場）、名取製作所（元埼玉工場）、新日本パイプ（現堺工場）などM&Aをしてきましたがそのスピードを加速していきます。
米国のリードコ社、バルブメーカーの本山製作所を皮切りに近々、数件のM&Aを行い、競争力強化と経営基盤の盤石化を図ります。さらに次代のコア事業を育成したいと考えております。

4. 技術立社回帰
長い歴史をもつ当社は様々な技術の蓄積があります。具体的には素材として高強度・高強靱性マグネシウム合金や鉛フリー銅合金・クリカブロンズなどありますが、商品化を急ぎます。

2007年３月には住吉工場内に「クリモト創造技術研究所」が新設されます。今まで分散していた研究施設、人を集結させ原点回帰しコア技術を確固たるものとし、さらに市場投入へのスピードも加速させます。

【戦う集団への変革】

栗本鐵工所は甘えを排し次の100年に向け、今出来ることの最善を尽くす所存でございます。今後もなにとぞご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。